
令和2年度

文化に関する世論調査

令和3年4月

調査概要

文化に関する国民の意識を調査し、文化施策の参考とすることを目的として実施するもの。平成28年度までは、内閣府において7～8年毎に対面方式で調査を実施。平成30年度からは、文化庁において毎年インターネットにより調査を実施。

- ・ 調査項目

文化芸術の鑑賞活動、鑑賞以外の文化芸術活動、子供の文化芸術体験、地域の文化的環境、文化芸術振興に対する寄付に関する意識、文化芸術の振興と効果、文化芸術の国際交流・発信

- ・ 調査対象

全国18歳以上の日本国籍を有する者 3,000人

- ・ 調査期間

令和3年1月29日(金)～2月1日(月) (計4日間)

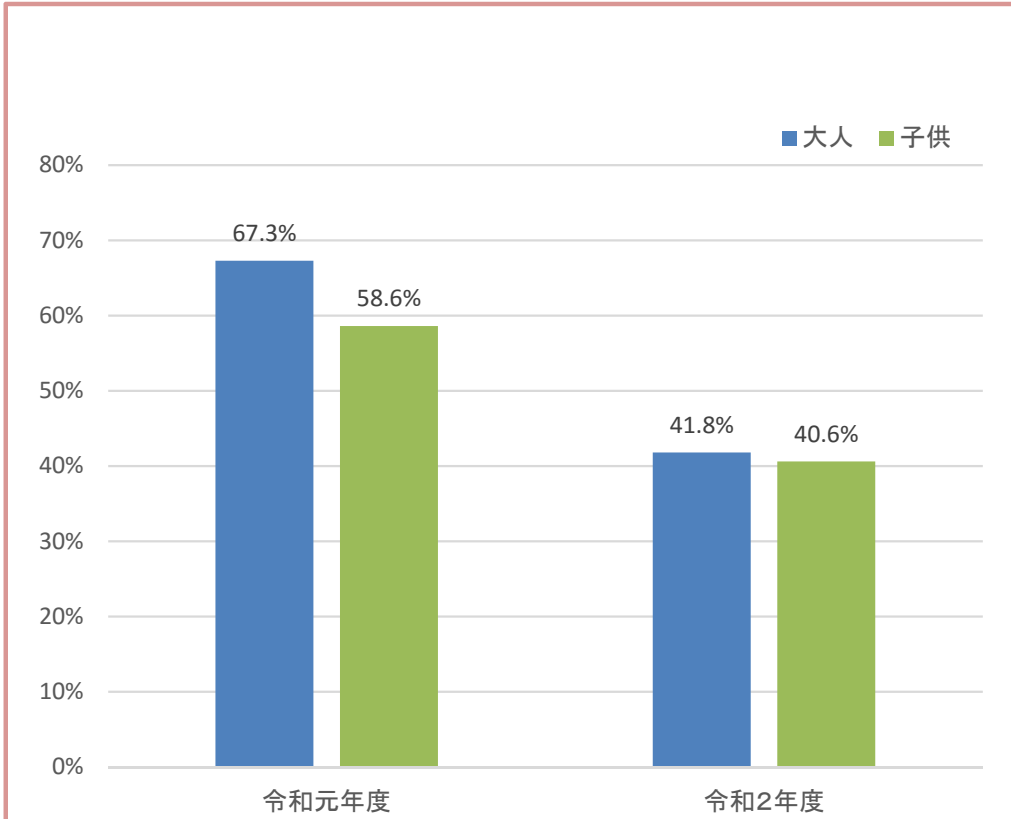
- ・ 調査方法

ウェブ・パネルを用いたインターネット・アンケート調査

1. 文化芸術の鑑賞活動(直接鑑賞経験)

- ✓ この1年間に文化芸術イベントを直接鑑賞したことがあると回答した人(大人)の割合は41.8%となり、前回(67.3%)から大幅に低下。子供についても同様の低下傾向。【1-1】
- ✓ 「鑑賞したものはなし」と回答した人に理由を尋ねたところ、「新型コロナウイルス感染症の影響により、公演や展示会などが中止になった、又は外出を控えたから」と回答した人の割合が56.8%と半数以上を占め、鑑賞割合の低下は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい。【1-2】

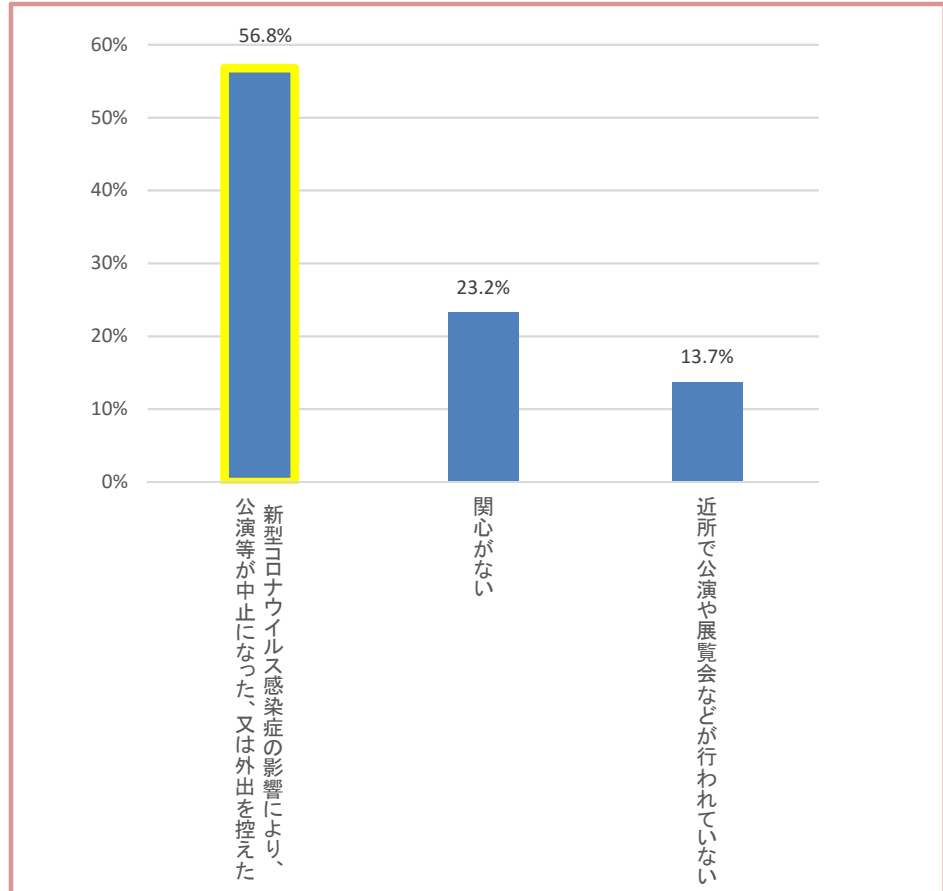
【1-1】 文化芸術の直接鑑賞経験



※子供は、回答者の同居の子供(最も下の年齢)の鑑賞経験

【1-2】 直接鑑賞しなかった理由(主なもの)

※1-1で「鑑賞したものはなし」と回答した人(大人)に対して質問

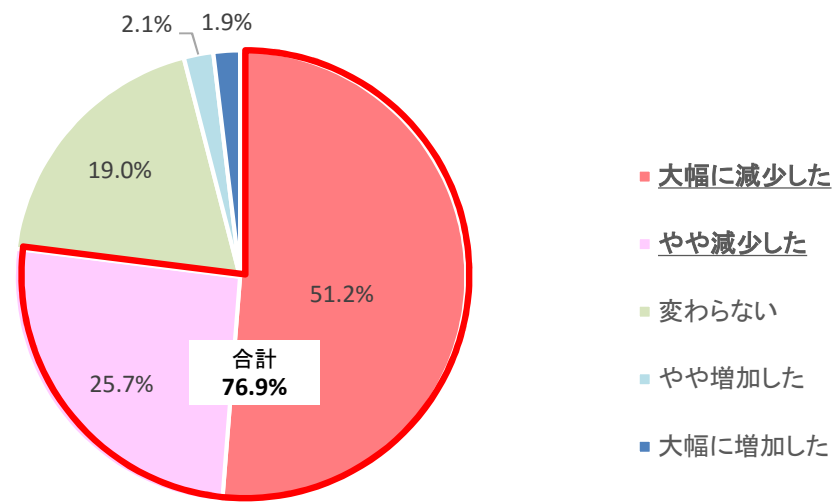


2. 文化芸術の鑑賞活動(直接鑑賞頻度の変化とその影響)

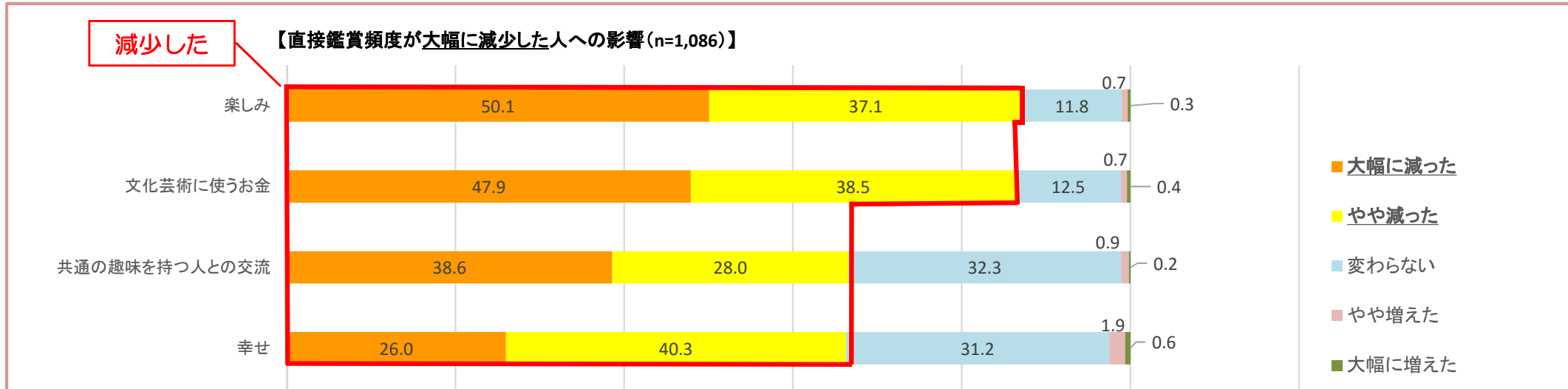
- ✓ 文化芸術イベントを直接鑑賞する頻度について、**減少したと回答した人の割合は76.9%**。【1-3】
(この1年間で直接鑑賞した人及びコロナの影響で鑑賞できなかった人の中での割合)
- ✓ 鑑賞状況の変化により、直接鑑賞が大幅に減少した人の87.2%が「**楽しみ**」が減った、86.4%が「**文化芸術に使うお金**」が減った、66.6%が「**共通の趣味を持つ人との交流**」が減った、66.3%が「**幸せ**」が減ったと回答。【1-4】

【1-3】 直接鑑賞頻度の増減

この1年間で直接鑑賞した人及びコロナの影響で鑑賞できなかった人の中での割合 (n=2,121)



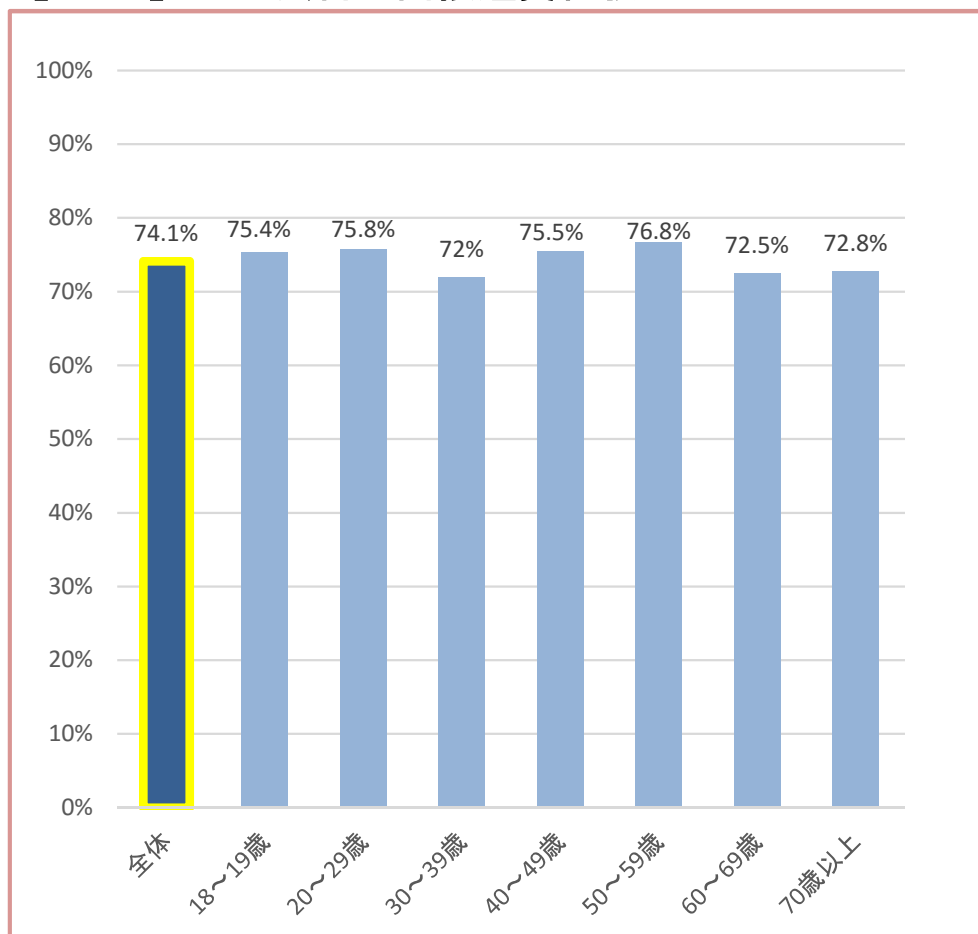
【1-4】 鑑賞状況の変化による影響(主なもの)



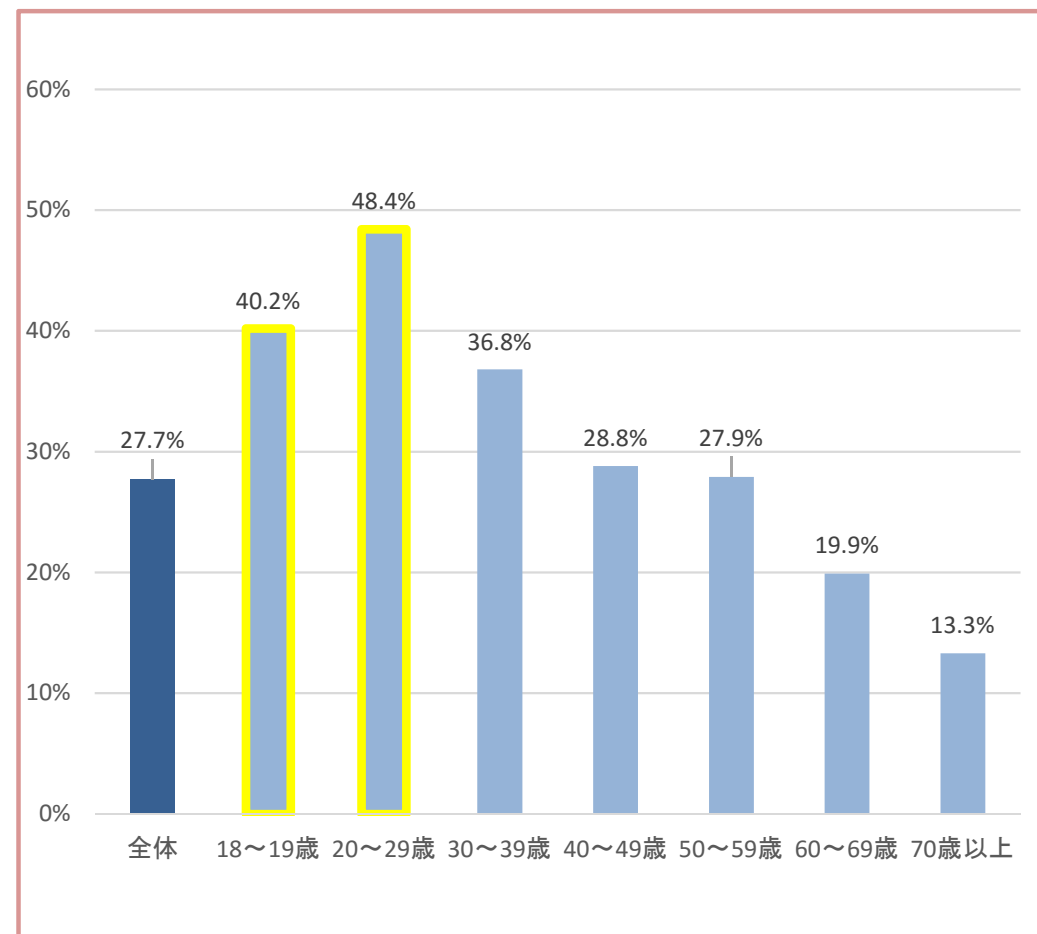
3. 文化芸術の鑑賞活動(間接鑑賞・オンライン有料鑑賞)

- ✓ この1年間に文化芸術イベントをテレビ等により鑑賞(以下、「間接鑑賞」という。)したことがあると回答した人の割合は74.1%。【1-5】
- ✓ 一方、有料でオンライン配信を鑑賞したことがあると回答した人の割合は27.7%にとどまるが、18~19歳では**40.2%**が、20~29歳では**48.4%**が鑑賞したことがあると回答しており、若い年代では鑑賞割合が高くなっている。【1-6】

【1-5】 文化芸術の間接鑑賞経験



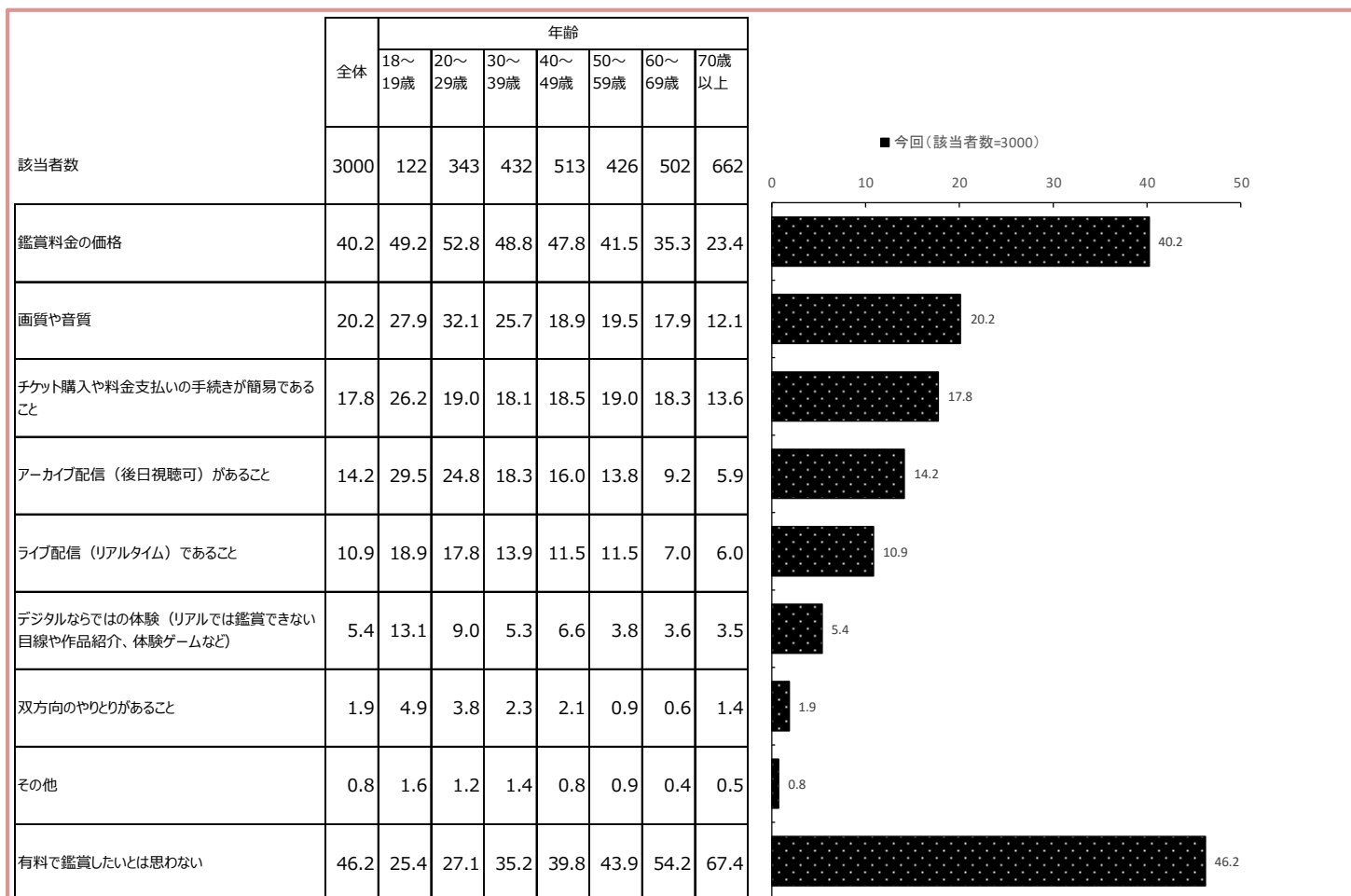
【1-6】 オンライン配信(有料)の鑑賞経験



4. 文化芸術の鑑賞活動(オンライン有料鑑賞で重視する点)

- ✓ 有料でオンライン配信を鑑賞する際に重視する点を尋ねたところ、「鑑賞料金の価格」と回答した人の割合が40.2%と最も高く、「画質や音質」(20.2%)、「チケット購入や料金支払いの手続きが簡易であること」(17.8%)と続く。【1-7】
- ✓ 「有料で鑑賞したいとは思わない」と回答した人は46.2%

【1-7】 有料オンライン配信で重視する点



5. 鑑賞以外の文化芸術活動

- ✓ この1年間に鑑賞以外の文化芸術活動を実施、支援したことがあると回答した人の割合は14.2%と前回(21.7%)から低下。【2-1】

【2-1】 鑑賞以外の文化芸術活動の経験(創作、出演、習い事、祭、体験活動など)

